

三好市

地球温暖化対策実行計画

(区域施策編)

概要版

豊かで生き生き安心安全なまち三好
～2050年 ゼロカーボンシティを目指して～



令和6年9月

地球温暖化対策実行計画ってなに？

「地球温暖化対策実行計画（区域施策編※）」とは、「地球温暖化対策の推進に関する法律」（平成10年法律第117号）第21条に基づき、都道府県、指定都市等、市町村が、その区域の温室効果ガスの排出量の削減等を行うための施策に関する事項等を定めるものです。

※「三好市地球温暖化対策実行計画（区域施策編※）」における区域は、三好市内全域を指します。

○背景と目的

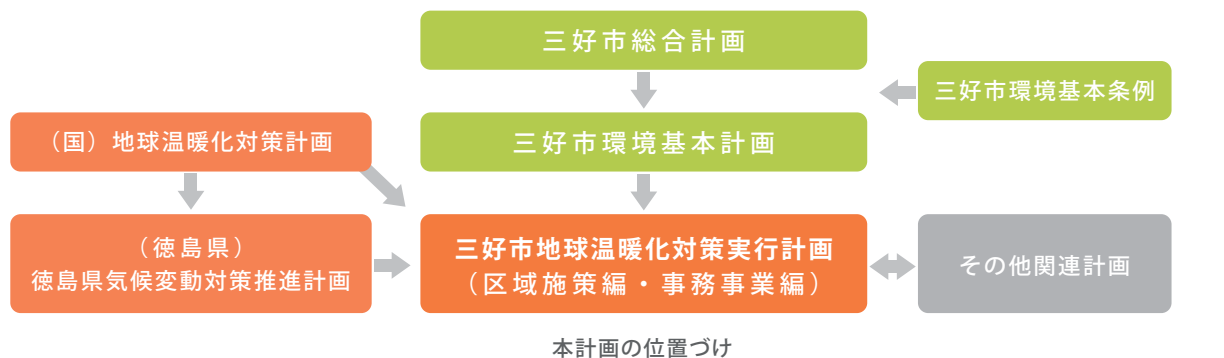
日本政府は、2020（令和2）年10月、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現をめざす」ことを宣言し、同年11月には、国会において、「気候非常事態宣言」が決議されました。さらに、2021（令和3）年4月に開催された気候サミットでは、「2030年度の温室効果ガス排出削減目標について、2013（平成25）年度比で46%削減を目指すとともに、さらに50%減の高みに向けて挑戦を続ける」ことを宣言するなど、脱炭素化の動きが加速化しています。

三好市は、2021（令和3）年12月に「三好市ゼロカーボンシティ」を宣言し、国際社会の一員として、脱炭素社会の構築・2050年までのCO₂排出量実質ゼロにより、将来像として「豊かで生き生き安心安全なまち三好」を掲げ、持続可能な地域社会の構築を目指しています。こうした脱炭素社会の実現に向けた施策を進めるため、本計画において市の将来ビジョンや2030年度に向けた温室効果ガスの削減目標、再生可能エネルギー導入量の目標等を設定し、森林吸収量の推進を図りながら、省エネや再生可能エネルギー導入の具体的な施策等を取りまとめ、地球温暖化対策の実行性を高めていくことを本計画の目的としています。

○計画の位置づけ

国の「地球温暖化対策計画」や県の「徳島県気候変動対策推進計画」をはじめ、三好市の上位計画である「三好市総合計画」、「三好市環境基本計画」などの関連計画や政策との整合を図ります。

また、計画期間は2013（平成25）年度を基準年度とし、中期目標年度を2030年度、長期目標を2050年度に設定し、2024（令和6）年度から取り組んでいきます。



地球温暖化ってなに？

近年、わたしたち人間による産業活動の活性化にともない、二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスが大量に排出されています。その結果、地球の熱の吸収量が増え、気温が上昇し続けています。

地球温暖化と呼ばれるこの現象は、気温の上昇により、熱中症や感染症などの健康被害、大気や水環境の悪化など、地球環境と生命に関わる重大な問題を引き起こしています。現在、事態のさらなる深刻化を回避するため、各国における早急な対応が必要とされています。



海面上昇による
国土消失



熱中症・感染症などの
リスク増加



豪雨や台風の
増加・異常気象



農作物の品質・
収穫量の低下



生態系の変化・
生物多様性の喪失

温室効果ガスってなに？

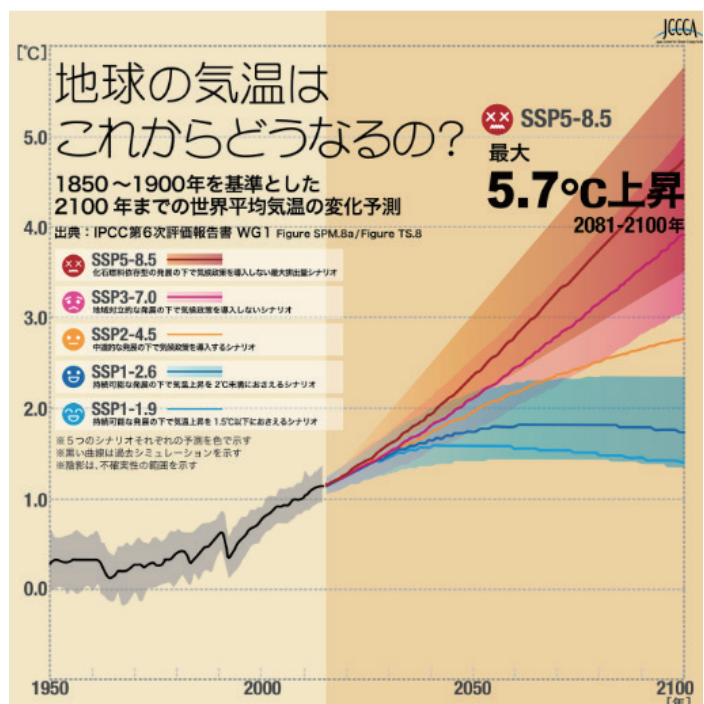
地球温暖化の原因とされる温室効果ガスは、主に、二酸化炭素(CO₂)、メタン、一酸化二窒素、オゾン層破壊物質でもあるフロン類がこれに該当します。その中でも最も影響を及ぼすものが二酸化炭素であり、温室効果ガス全体のおよそ77%を占めています(IPCC第4次評価報告書)。二酸化炭素は、石油や石炭などの化石燃料の燃焼によって多く排出され、地球温暖化の最大の原因であるといわれています。

地球の気温はこれからどうなるの？

今後、地球の温室効果ガスの濃度が高くなるにつれ、世界の気温もさらに上昇するとされており、IPCC第6次評価報告書によると、今世紀末までに3.3~5.7℃の気温上昇(SSP5-8.5)が予測されています。

※IPCCとは

「Intergovernmental Panel on Climate Change」の略で、地球温暖化についての科学的な研究の収集・整理のための政府間機構です。1988年に世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)によって設立されて以来、気候変動とその対策に関する科学的な知見の提供・評価を行っています。

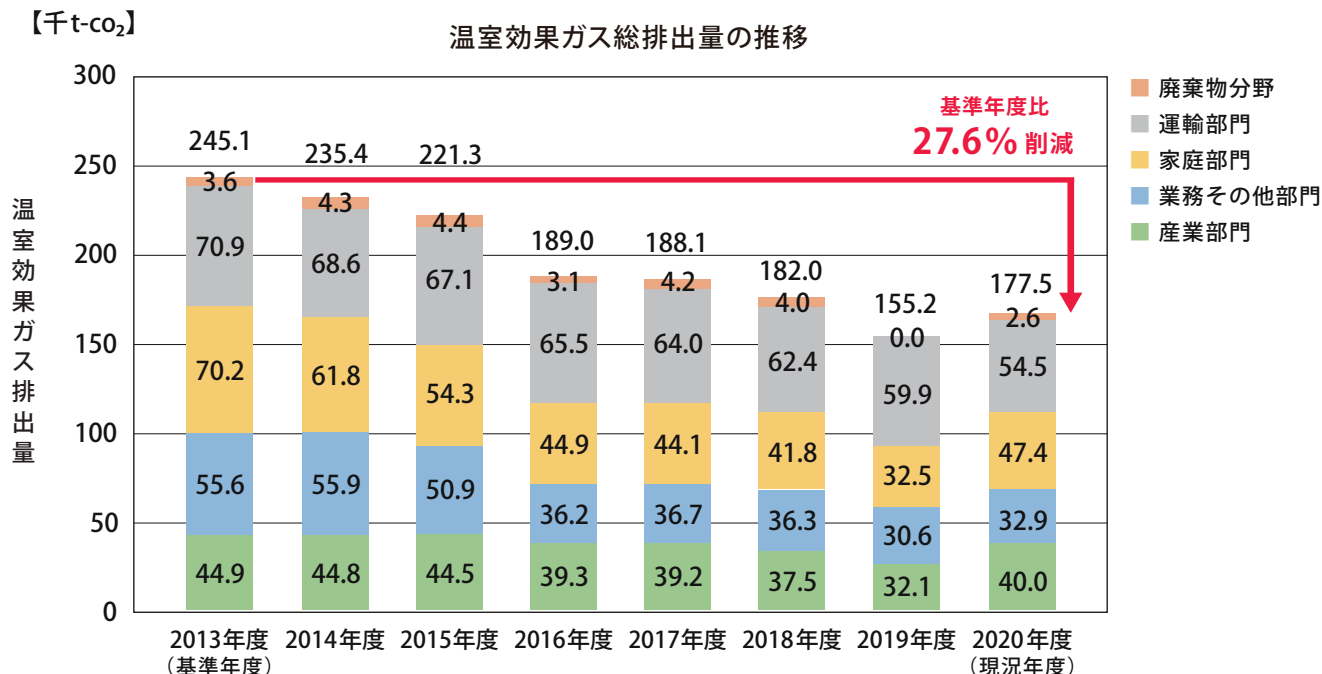


世界の平均気温の変化予測



三好市の 温室効果ガス排出量

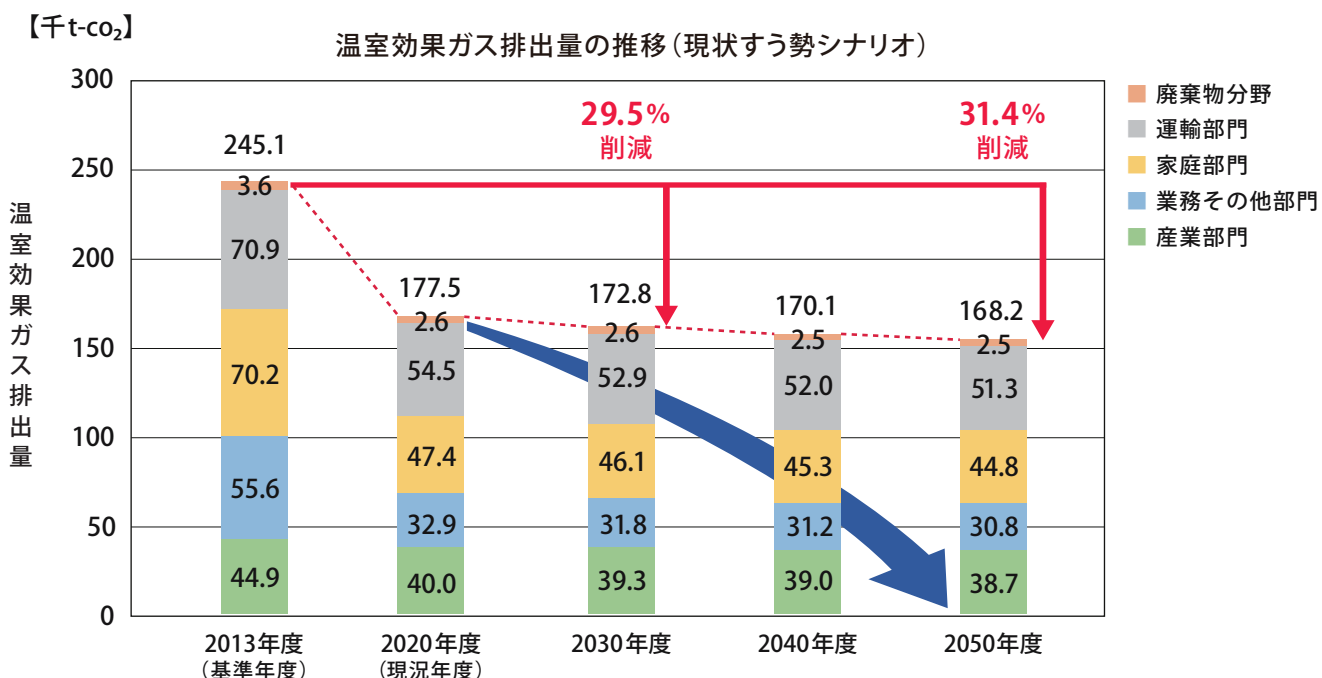
地球温暖化の原因となる温室効果ガスですが、ここで実際の三好市の温室効果ガス排出量を見てみましょう。総排出量の推移グラフによると、2013年度(基準年度)以降は減少傾向にあり、2020年度(現況年度)の排出量は、基準年度比27.6%減少しています。



今までのままだと…

もし、このまま地球温暖化への追加対策を取らなかった場合、三好市の温室効果ガス排出量はどのようになるのでしょうか。シナリオグラフを見てみると、2020年度(現況年度)以降、ゆるやかな減少傾向をたどり、2050年度には基準年度比31.4%の削減に留まる見込みです。

2050年温室効果ガス排出量を実質ゼロにするには、市民・事業者・市が連携・協力して更なる対策が必要になります。



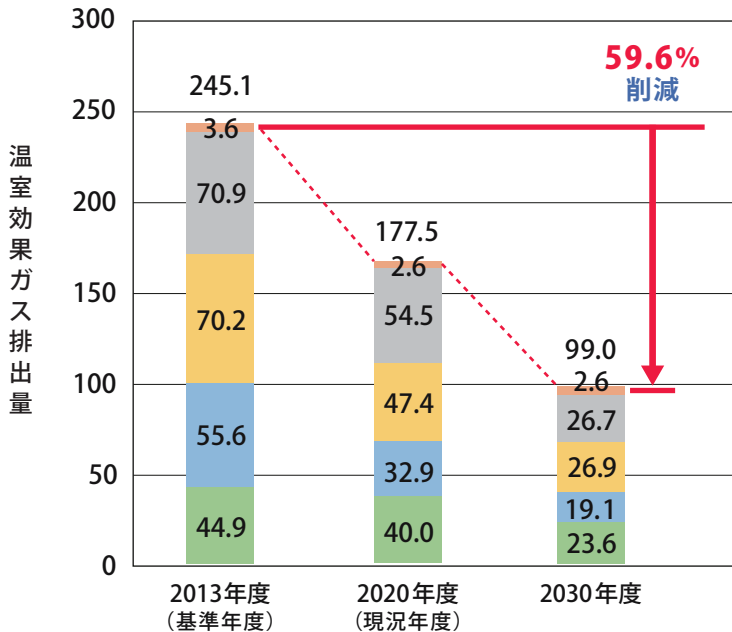
2030年度までに、

※2013年度比

温室効果ガスの **59.6%削減** を目指します。

【千t-co₂】

温室効果ガス削減ポテンシャル



「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」へ向けた中期目標として、三好市は2030年度までに省エネ対策を強化していきます。

また再生可能エネルギーを積極的に導入し、温室効果ガス排出量の59.6%削減(2013年度比)を目指していきます。

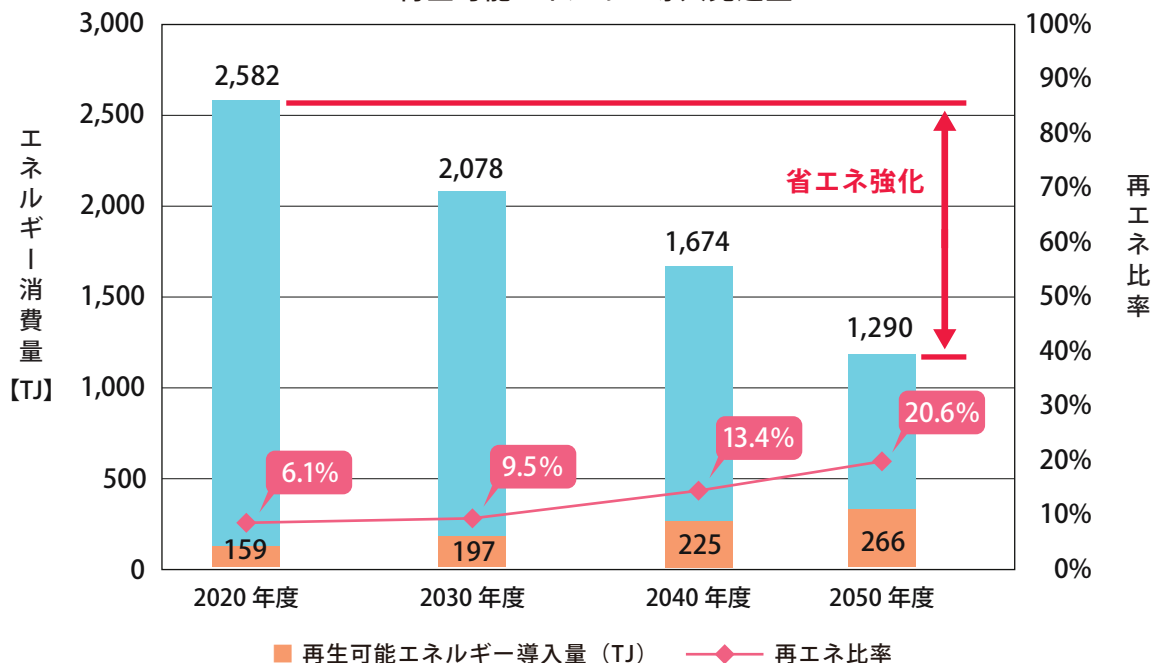
地球温暖化を抑えるためには、私たち一人ひとりが環境にやさしい取り組みを実行することが大切です。今からできる温室効果ガスの排出を減らすための行動を一つずつ積み重ね削減目標を達成しましょう。

■ 廃棄物分野 ■ 運輸部門 ■ 家庭部門
■ 業務その他部門 ■ 産業部門

再エネ導入目標

再生可能エネルギーを最大限導入していくため、導入目標を掲げ取り組んでいきます。2030年度までに累計197TJ(対エネルギー消費量9.5%)、2050年度までに累計266TJ(対エネルギー消費量20.6%)の達成を目指します。池田総合体育館や山城中学校、その他公共施設の一部には太陽光発電設備を導入しています。

再生可能エネルギー導入見込量



みんなで取り組めること!

深刻化が進む地球温暖化から、環境や未来のわたしたちの生活を守るためには、市民・事業者・市が連携、協力して行動を起こし、継続していくことが大切です。

では、わたしたち市民として具体的にはどのようなことができるでしょうか。三好市の5つの基本目標ごとに見ていきましょう。



基本目標

01

脱炭素社会の実現

- ① 温室効果ガス排出量の削減
再生可能エネルギーの導入
省エネルギーの推進
- ② 脱炭素型交通の促進

① 温室効果ガス排出量の削減

- ・住宅へ自家消費型太陽光発電設備や蓄電設備の導入
- ・再エネ電気プランへの切替等による再エネ導入率の向上
- ・「エコみらいとくしま」が実施している「うちエコ診断※」の受診検討
- ・自主的な省エネ行動の実践(デコ活の推進)、省エネ最新情報の入手
- ・省エネ性能の高い家電の購入(ZEH※住宅の導入検討)

② 脱炭素型交通の促進

- ・ドライバーによるエコドライブ※の実践
- ・自家用車を電気自動車(EV※)や燃料電池車(FCV※)へと段階的に切替
- ・自宅へ充電設備等の設置検討
- ・地域住民だけでなく観光客による公共交通機関の利用促進

基本目標

02

気候変動適応の強化

- ① 防災減災機能の強化
自立分散型エネルギーの確保
- ② 農業の振興
- ③ 健康で快適な生活環境の確保

① 防災減災機能の確保

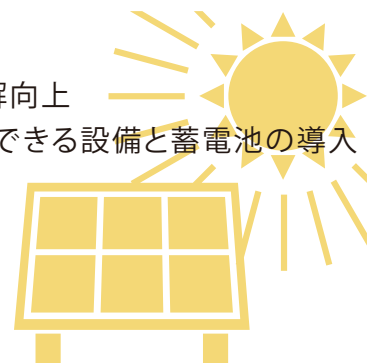
- ・グリーンインフラ※整備への理解向上
- ・家庭用太陽光発電から自家消費できる設備と蓄電池の導入
- ・電気自動車(EV)の利活用

② 農業の振興

- ・地元の食材、製材の消費推進
- ・スマート農業※の理解向上

③ 健康で快適な生活環境の確保

- ・熱中症対策の理解向上、作業時の熱中症対策の強化
- ・感染症対策としてのリモートワークの導入推進
- ・気候変動適応に関する情報収集
- ・ハザードマップ等を活用した避難場所の確認



基本目標

03

自然との共生

- ① 豊かな自然環境の継続的保全
林業の担い手育成
- ② 自然と人が触れ合う機会の創出

① 豊かな自然環境の継続的保全

- ・ボランティア活動等を通じた森林整備への積極的関与
- ・所有する林地の適正な管理等の実施
- ・林業への理解向上、ボランティア活動への参加

② 自然と人が触れ合う機会の創出

- ・自然体験機会への積極的な参加
- ・グリーンツーリズムの理解向上及び参加



基本目標

04

循環型社会の構築

- ① 資源の循環利用
5 Rの推進
 - ・Reduce ごみを出さない
 - ・Reuse 繰り返し使う
 - ・Recycle 再利用する
 - ・Refuse ごみになるものを断る
 - ・Repair 修理して使う

① 資源の循環利用

- ・ごみ分別の徹底、生ごみの減量化、フードロス※削減
- ・マイバック活用、簡易包装商品の購入促進
- ・地元食材、木材等の積極的な使用
- ・地域資源の持続的使用



基本目標

05

協働参画の 地域づくり

- ① 環境活動・環境学習の充実
地域での環境活動機会の創出
- ② 地域間連携の強化

① 環境活動・環境学習の充実

- ・環境学習、環境保全活動への積極的な参加
- ・環境学習で学んだ内容を家庭内外で共有
- ・環境イベントや環境保全活動への積極的な参加

② 地域間連携の強化

- ・市外と連携した環境保全活動や取組への参画
- ・世界と連携した環境活動への積極的な参画



うちエコ診断

家庭のエネルギー使用量や光熱費、CO₂排出量などを専用ソフトを用いて把握し、具体的な温暖化対策を提案するサービス。

ZEH

Net Zero Energy House (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略で、通称「ゼッチ」。建物で使用するエネルギーと、太陽光発電などで創るエネルギーをバランスして、年間消費エネルギー量を実質的にゼロ以下にする家。

エコドライブ

燃料消費量やCO₂排出量を減らして、地球温暖化防止につなげる運転技術や心がけ。



グリーンインフラ

自然環境が有する機能を、社会におけるさまざまな課題解決に活用しようとする考え方。

電気自動車 (EV)

バッテリーに充電した電気の力で走る自動車。モーターを動力とし、走行時にCO₂を排出しない。充電スタンドや自宅での充電が可能。

燃料電池車 (FCV)

電気自動車の一種。内部に搭載された燃料電池において水素と酸素の化学反応を起こして発電し、その電力で走る自動車。充電の代わりに水素の供給が必要。

スマート農業

ロボット、AI、IoTなどの先端技術を活用した次世代の農業。農作業の自動化、情報共有の簡易化、データの活用などにより、農業経営における効率化や省力化を目的とする。

フードロス

本来、食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。賞味期限が間近のもの、売れ残り、食べ残りなど。

環境と家計にやさしい! デコ活チェックシート



デコ活とは?

- デコ活は、二酸化炭素 (CO₂) を減らす「Decarbonization (脱炭素)」と環境に良い「Eco」を組み合わせた新しい言葉です。
- 「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」として、さまざまな自治体・企業・団体等で実践、推進されています。



地球とわたしたちの未来のために、まずは一人ひとりができることから始めてみませんか。

取組内容	CO ₂ 削減効果 (kg-CO ₂)	年間節約額
太陽光発電設備の設置	920	53,000円
高効率給湯器の導入	70~526	6,000 ~ 35,000円
断熱リフォーム (窓・サッシなど)	1,131	94,000円
節水 (節水シャワー・節水型トイレなど)	105	16,000円
LED等高効率照明の導入	27 (2台交換)	3,000円
クールビズ・ウォームビズ	41	4,000円
冷蔵庫の買い替え	108	11,000円
エアコンの買い替え	70	7,000円
次世代自動車 (EV、PHEV、HVなど) を選択	610	75,000円
エコドライブの実施	117	9,000円
マイボトル、マイバッグの利用、分別などにより容器包装プラスチック等のごみを削減する	29	4,000円

環境省「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの10年後」より作成

環境省 デコ活

検索

詳しくはこちらのQRコードからアクセス
もしくは「環境省 デコ活」で検索

